

2次試験対策サブノート 事例IV

<気づきカテゴリ>

- ①難しさ：各事例の「難しさ」、つまり**問題点**。またつまり要求される能力。
課題→「難しさを読み取って、**安定した処理**をする」
 ②a学習法：その処理の体得に役立つ勉強法。 ③a今日イチ：ナイスショット！
 ②b構成：解答フレームと記述表現テンプレ。 ③bとんち：ひっかけ。言われてみれば。
 ②cテク：処理スキル。
 ②dネタ：解答構成・記述に役立つ業界ネタなど。

テーマ	論点	今日の気づき	カテ	重要度	備考・間違いノート
1	8/17 事例講義④ (事例IV)	・事例IVは文章量で難しくみせているが、論点はCVP・DCF・企業価値など典型的	難しさ		
2	8/16 事例講義④ (事例IV)	・事例IVは1.5次試験と考えるとびったり。事例I～IIIとは対応異なる。 ・事例IVでの高得点は案外難しい。①経営分析 ②管理会計(CVP)はいただく。③ファイナンスが得点可能性プレが大きい。	学習法		
3	8/16 事例講義④ (事例IV)	・事例IV対策は比較的短期記憶型だが、経営の基礎知識として長期記憶に役立つ点も多い。 ・設備投資→資金需要→中期経営計画、と遡って具体化⇄抽象化を繰り返して。試験的には定性コメント編集時に役立つ。 ・事例IVに必要な知識は、経営分析を除けば基本は1次学習でカバー済みのものばかり。基本を固めて応用を確実に体系化・ネタ化する。	学習法	☆	
4	8/19 事例講義④ (事例IV)	・事例IV対策はまず経営分析。ヒントが①与件 ②FSの2つもあって簡単。慣れたら得点源。	テク		
5	8/19 事例講義④ (事例IV)	【CF&経営分析高畑塾】 ・2期BS+PLを(H18事例IV)を、①間接法CF計算書 ②経営分析、の2つで解き倒す。 ・経営分析はゲームとして楽しむ。	テク		
6	8/19 事例講義④ (事例IV)	・経営分析指標は狭くピンポイントにするほどリスク↑。従って基本パターンは以下の通り 収益性：売上高経常利益率 → 営業利益率 → 総利益率 効率性：棚卸資産回転率 → 有形固定資産回転率 → 総資本回転率 安全性：当座比率 → 流動比率 → 負債比率 ・早期的に改善できる問題点、は診断士向き。コンサルとして改善。改善は個別問題で行うので、経営分析のここ数年の要求は問題点指摘どまり。 ・経営分析出題0の可能性も0ではない。ただ今のところ毎年出てる。	テク		経営分析
7	8/19 事例講義④ (事例IV)	・安全性に問題なければ効率性を①棚卸資産回転率 ②有形固定資産回転率、に分けて指標に加える。 ・収益性を2つ挙げてもするので、原則1つキープ。 ・ということで、指標自体は必ず得点できるので点差つかない。よって与件の根拠をフレームを使って数多く織り込むことで点差つけるシナリオが可能。根拠に時間を使い、指標は最後にホイット選んで入れるイメー	テク		経営分析
8	8/16 事例講義④ (事例IV)	・経営分析～収益性指標。営業利益が経常利益で悩んだら経常利益を選べばOK。×にはならない。 ・P.223例題。与件の根拠から経営分析指標を選ぶトシ。確かに根拠埋め込んであるな・。	テク		経営分析
9	8/19 事例講義④ (事例IV)	・問2-4は個別問題。与件と一応絡めてあるが与件読まなくても解ける。逆に個別問題の裏返しは経営分析の問題点であり、その意味でつながってる。 ・事例IV知識問題は本当に知識を書かされる時がある。根拠1-2行に対しマス目120字であれば、残りは知識に点くれるスペース。その意味で知識がある人有利。 ・会計理論60字知識問題。字数制約キツイので会計用語を的確に用いて字数オーバー回避。	テク		
10	8/19 事例講義④ (事例IV)	・1次で出た論点注意。リアルオプションは演習でも出題。 ・原価計算の種類・目的を突然尋ねる問題。受験校でも対策とっておらず受験生の大多数はできない。よってこれも合否ボーダーには無関係。	テク		
11	8/16 事例講義④ (事例IV)	・CF作成問題は減少しているが、出題可能性はある。作るなら間接法。なるべくシンプルなもの時間で時間かけずトシ。 ・CF分析は、営業CF± × 投資CF± の4通りのみ、財務CF出番なし。 営業CF+ < 投資CF- でFCFが△ 営業CF- > 投資CF+ でFCFが△ の2パターンのみ押さえればOK。	テク		CF
12	8/19 事例講義④ (事例IV)	・間接法CFは1箇所違っても答が合わなくなる。カンペキにピタッと合わせる。恐らく営業CFが解答要求。投資・財務CFの差額で求まるケースもあるが、そんなに甘いことばかりでないので、積み上げて正しく計算できるレベルへ。 ・PLの特別利益＝固定資産売却益、営業外収益＝受取配当利息、営業外費用＝支払利息、と瞬時に読み替える。配当金の支払額は、備考欄にいるか、利益剰余金の前年差から。 ・間接法の非資金費用は①減価償却 ②貸引増減の2点に限定。商品廃棄損も非資金ではあるが、棚卸資産増減でカウント済みなので対象外。	テク		CF
13	8/16 事例講義④ (事例IV)	・診断士試験の用語使いチェック。「限界利益率」で出る。貢献利益率は固定費負担後の方。 ・マス目中の略語の使用基準にも注意。 ①与件文括弧書きで明示ならOK→キャッシュフロー(CF)、(SCM) ②勝手に使うのは避ける→DB、NW、PC。そりゃ印象悪いわ。	テク		CVP

14	8/16	事例講義④ (事例IV)	・採算性の検討(セールスマックス)で、貢献利益率⇄額で結果異なる場合はある。ケースバイケース、問題指示に従うのみ。それでも不明ならばかして解答。	テク	CVP
15	8/16	事例講義④ (事例IV)	・その他理論少字数記述対策? ・活動基準原価計算ABC。配賦精度向上までがABC、分析結果フィードバックしてコスト改善するならABM(Management)。	テク	ABC
16	8/16	事例講義④ (事例IV)	・ファイナンスは苦戦しがちだが、「単純なものをいかに複雑に見せるか」の問題でしかないので、「結論から入ってけたぐる」ことで処理OK。 1次より与えられるデータ多い → × データから考える(データプッシュ×) 求められている結論から逆算 → ○ 必要なデータを取りに行く(プル○) ・資本コスト(企業)と期待収益率(投資家)が裏表の関係にあることを意識し、ワンランク簡単にする。	テク ☆	ファイナンス総論
17	8/19	事例講義④ (事例IV)	・設備投資、ときたら経済的効果(正味CF)が要求、とすぐつなく。 ①収入・支出ベース=(1-税率)×(CIF-COF)+税率×減価償却費 ②営業利益ベース=(1-税率)×(CIF-COF-減償)+減償 =(1-税率)×OI+減償 要は税引後CIFのBOX図を2つの切り口で掴むことで対応度UP。 ・設備投資の評価方法、①DCF法 ②IRR法に加え③収益性指数(PI)法を知識にプラス。 PI=CFのPVの合計/投資額。ある意味GMROIみたいな考え。複数学説あり本来出題しにくい、診断士試験での出題例あり。	テク	設備投資
18	8/16	事例講義④ (事例IV)	・P.267、設備投資評価の記述のポイント必読！計算合っても記述間違っていると点コナイので、しっかり押さえておきましょう。	テク	設備投資
19	8/16	事例講義④ (事例IV)	・DCTはH17、H19で出題。H20出ないのH21出題可能性H、力入れてカバー。 ・選択しないルートは//で閉じる。	テク	DCT
20	8/19	事例講義④ (事例IV)	・DCTは期待値計算と区別できれば勝ち。 ①後ろから順に判定 ②使わないルートを//で閉じる。 ②で不利な選択を捨てることができ、期待値計算よりも値があがる(リアルオプション)。そういうことか・・・問題を一度解いてマスター。	今日イチ ☆ ネタ	DCT
21	8/16	事例講義④ (事例IV)	・企業価値算定の方法・パターンは様々。結論は問題指示に従えということ。多様なパターンを意識してレ、ネタストック。	テク	企業価値
22	8/19	事例講義④ (事例IV)	・企業価値計算における永続価値の扱いはオプションパーツの典型例。(定額)PV=CF/r、定率成長PV=CF1/(r-g) ← 数式理論で求めるので理屈考えても無意味。丸呑み。 ・FCFをWACCで割り引けば企業価値。	テク	企業価値
23	8/19	事例講義④ (事例IV)	・厳密な意味での用語使い分けができれば上級レベル C=キャッシュフロー(税後OI+減価償却費) FCF=フリーキャッシュフロー(C-運転資本増減↑-投資支出)。企業価値計算はこちら。尾ひれついている。 r=資本コスト。その投資案件の要求利益率 WACC=全社の加重平均資本コスト	テク	
24	8/19	事例講義④ (事例IV)	・連立方程式はいろいろ変化させるツールとして、作問者にとり便利。 例)WACCの税前・税後→自己資本比率推定 ・額と率の相互補完シリーズ 利益額⇄利益率、NPV法⇄IRR法	テク	
25	8/16	事例講義④ (事例IV)	【今日の予実】 ①事例III ・難しさの把握 →あまり明示でないが、生産の感覚、因果など、事例Iにちよい似てる。 ・出題論点→テキストにて必要知識を体系的に整理。後で戻れる ・処理プロセス→受注～納品プロセス、後から戻って問題点発見。埋め込み根拠から改善提案 ②事例IV ・経営分析手順確認 →テキストは幅広いが、既存手順でOK。進める。 ・出題論点全体像 →OKほぼ全て1次既習。+αで意思決定会計。 ・学習方法・配分 →時間over注意。週末1日使ってまとめてやる。		・合宿2日目は集中力も途切れずバッチリ。事例III・IVそれぞれ何が求められているか、今どこまでできているかの感覚掴んだ。 ・与えられたテーマは「合格に必要なレベル」と「合格」の違い。 ・あと自分が大事と思ったところと講師がそう思うところのなんとなく微妙なズレ。これは質問繰り返して解消。
26	8/23	H19事例IV	・経営分析～処理手順固め&解答根拠延べ9個 →根拠埋め込みパタに不慣れ感。もう一度出直し感。 ・個別問題の出題範囲、捻り方チェック →DCTはこの問題か・・・知ってれば計算は容易。端数処理選択は難。 ・時間予実 →知ってるからOKだが、本番ならキツイ。経営分析にも少し時間必要 ・小数点指示の最終確認 →漏れ。緊張感のなさを露呈。やはり端数処理は・・・慎重さが点になる。		
27	8/24	演習④ (事例IV)	・事例IVはタイムマネジメント勝負。70分と思って勝負。取れる問題を取った者が勝ち、取れない問題をやった者が負け。 ・個別問題の難易は着手して初めてわかる。予め処理予定時間を決め、沼にはまったら引き返す勇気が点差になる。 ・正確さ>速さ。正確さ>速さ、ではあるが、速さの重要性を忘れない。 ・財務得意=必ずしも高得点とならない蟻地獄パターンに注意。変な所にこだわって時間ロスするのはもったいない。 ・ボーダー上の戦いでは「思考のループを断ち、どこかで+αの点を取る」ことが重要。	難しさ	

28	8/24	演習④ (事例Ⅳ)	・採点しやすさを考慮し、ちよい難しめ・多少トラップありの個別問題を予想。 ・知識問題は1問出る。上級生は事例Ⅳの範囲を狭く捉えがちなので、意識的に外の知識のストレッチをする。H20は種類株式、H21は自己株式・倒産関連法制・組織再編あたりを暖めなおす。1次の有価証券評価差額金＋税効果も要チェック。	難しさ		
29	8/24	演習④ (事例Ⅳ)	・演習④は基礎的知識。ケアレスミスの有無、表現の細やかさが復習チェックポイント。 ・時間ロス削減には、いろんなネタをキャッシュに置いておく事が○。特に経営法務周り。ストレート生有利。 ・他流試合は不要だが、TAC演習のクセもあるので、広めのストレッチ。	学習法		
30	8/24	演習④ (事例Ⅳ)	・経営分析「問題点を挙げよ」⇔「問題点の根拠を説明せよ」では、心持ち解答構成が異なる。問題文スラッシュナミセンで慎重にチェック。	構成		
31	8/24	演習④ (事例Ⅳ)	・経営分析の根拠の編集・紐付けて悩んで時間ロス傾向あり。あんまり点変わらないのでささと済ませる。 ・経営指標当たっても、計算ミス・小数点処理ミス・単位ミスはよく起きる。特に端数処理は点数落とす絶好の口実(と引継されているらしい)。 ・従って部分点は期待薄なのでくれぐれも処理・計算は慎重に。本試験前に電卓の小数点セレクトレバーを再点検する位の意気込みで。 ・計算ミスの話。合格者は簡単な計算でも電卓使う。暗算は変な計算してミスる可能性あり。	テク		
32	8/24	演習④ (事例Ⅳ)	・個別問題は、長文問題文から計算式に落とし込む紐付け力の勝負。 ・問題要求の制約が足りず複数解釈できちゃうケースは難。XX先生は別解認める性格ではないので、2解釈で悩んだら思い切って飛び降りて時間ロス防止。時間余裕あれば両天秤作戦。	テク		
33	8/24	演習④ (事例Ⅳ)	・CF分析の処理テンプレ(テク追加) ①営業CFの正負 ②FCF(営業＋投資)の正負 ③CF計の正負 ・プラス→正、マイナス→負と表現して字数セーブ。	テク		
34	8/24	演習④ (事例Ⅳ)	・設備投資の収益性評価PI法。問3(2)を使ってトシ。 →NPVが大差ない場合、投資の効率性を示すためにPIを使う。 ・ $PI = \sum(\text{各年のCFのPV}) / \text{投資額}$ A)50投資でNPV=100 B)300投資でNPV=300 ならA案の方が効率が良い、という風に使う。	テク		
35	8/24	演習④ (事例Ⅳ)	・返品と値引の違いを経営へのインパクトで考える。実感とやや異なるが、利益源に直結する値引の方が悪いインパクト。	持ちネタ		
36	8/24	演習④ (事例Ⅳ)	・CFの自力作成は間接法優先。 ・減価償却費はPL・CRの両方使って合計。 ・いくつかのポイントクリアすれば、あとは間接法CFを肅々と作るだけ。 ・CFはオーソドックス論点狙い。あいまいさが怖いのであまり変な所(経過勘定等)は出題しにくい。 ・CF計算書の営業CF△→手許現金減少は危険サイン。借入増→将来の支払金利発生まで一気にロジックでつなぐ。 ・本試験ではCF分析は出づらい。何か形を変えて別の形で問われると想定しておく。	持ちネタ		
37	8/24	演習④ (事例Ⅳ)	【今日の予実】 ・経営分析手法 →根拠多すぎて編集に悩む。時間ロス注意。無理な満点狙い不要？ ・個別問題～Oイメージと実際のGAP →基礎的問題で全問○。知識系は悩まずネタ帳ストック。 →1つのFS→CF&経営分析はもうここで登場。ちえっ。 ・時間配分 →かなり余裕。時間割り付けて個別問題先→一巡して見直し、がよさそう			
38	8/30	過去問分析	・1次⇔2次出題のつながりチェック。結論としては無相関っぽい。 ・2次の出題範囲は1次でカバー済＋一部のプラスα(DCT・業務的意思決定)。1次知識を確実にし、変化パーツをリストアップして合格ラインクリア。 ☆学習方法修正 優先度①:TAC各練の解き直し、基本＋パーツ分解しながら2周。 優先度②:工簿トレⅢ一気解き(時間配分決めて定期的に回す)			
39	8/31	演習④ (事例Ⅳ)	・事例Ⅳは処理ルールの守り方が数字に現れ、10点単位の差がつく。現時点で点が低い場合はまずお約束ルールに従っているかを確認。演習&解説を通じルールを知って得点安定。経営分析の解き方もおさらい。	学習法		
40	8/31	演習④ (事例Ⅳ)	・経営分析と件読み込みいろいろ解説・・・つまり与件の根拠Push(経営指標前振りの時点で経営指標はほぼ予想可能。 ex.)見込生産→つくりすぎ。→棚卸資産回転率が第一容疑者。 結論:レギュラーメンバー以外は原則考慮に入れない。生産性分析・成長性など。どの参考書見ても同じ。 理由:試験委員の要求「与件の根拠使ってね」を考えると、60字が埋まらない売上高成長率はあり得ない。同じ理由で具体的な数字は記入不要。数字で引き伸ばすと採点対象外Dランクのリスク。 ・ただしもし聞いたことないレギュラーな指示があれば、柔軟に対応。 ・念のためもう一度。効率性指標のBSは期中平均不要。	構成		経営分析

41	8/31	演習④ (事例Ⅳ)	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の問題点指摘の文末は試験委員の口調に従い、「収益性・効率性・短期安全性が低下している」でまとめる。これでグッと締まる。アピール。 ・与件の最大の問題点「新製品の生産が非効率」は3つの指標全てに使えるトリガー根拠。これで3/9=6点埋まる。 ・D社の問題点⇔改善策は1組しかないケースが主。従ってトリガー根拠は3回使ってOK。 ・与件根拠がどうしても見つからなければFSから計算。ただしあくまでオーソドックスな指標を。 	構成	経営分析
42	8/31	演習④ (事例Ⅳ)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性は一番選びやすい。当座・流動比率<100%、固定・固定長期比率>100%ならすぐ指摘できる。注意ポイントは当座比率の求め方。有価証券を含み、その他流動資産を含まない。 ・安全性指標では、固定比率より短期安全性(流動比率・当座比率)優先。理由:問題文の「特に重要と思われる」「最的確に表す」は「短期的に改善可能な課題」と解釈できる。 ・例外的にH20「Z社出資」のような明らかな根拠ある場合は、「自己資本比率」などがあり得る。よほどの場合でなければ考慮不要。 	テク	経営分析
43	8/31	演習④ (事例Ⅳ)	<ul style="list-style-type: none"> ・CF計算書は診断士の必須スキル。出れば必ず解けるし、周囲も出来る。 ・CF計算書は2期BS+当期PLから作成。間違えさせるポイントは限られているので、演習+分析でパターンストックする。 ・配当金の支払額(C/Nから) ・有形固定資産売却損益 ・特別損益の暗示読み取り ←1次試験知識+経験でカバーOK。 ・経過勘定は本試験では恐らく出ないが、演習⑧でトレ予定。 	難しさ	CF計算書
44	8/31	演習④ (事例Ⅳ)	<ul style="list-style-type: none"> ・CF分析は間接法で処理。直接法だと営業CFの内訳が不明となり、指摘につながらない。 ・間接法CFで営業CF求められたら、税前から作らずOIから作れば結論が早い。まあチェック用だな。 ・CF分析の指摘点は「売上債権の増加」「棚卸資産の増加」のどちらか ・CF分析で出てくるのは状態の良い企業。営業CF△、投資CF+であるが、FCFが△となっている。 ・CF分析は少字数に営業CF・投資CF・FCF・財務CF・CF計を幅広く盛り込む。略語CF使用OK。 	構成	CF計算書
45	8/31	演習④ (事例Ⅳ)	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の売却タイミング(期首・期中)は不明で与えられる。推定簿記の考えに基づき「期首売却=当期減償0」で処理する。CF上は期首期中どちらでも同じ結論だから。その他難しめパターンは模試付録「得点UPレジュ 	テク	CF計算書
46	8/31	演習④ (事例Ⅳ)	<ul style="list-style-type: none"> ・配当金の支払を指摘しないこと。経営者の逆鱗であり、診断士にこの助言をさせることはあり得ない。 ・以上をまとめると、試験としてでなく、本職診断士になったつもりで実際あり得るケースに即して分析・助言しましょう、というメッセージ。 	持ちネタ	CF計算書
47	8/31	演習④ (事例Ⅳ)	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資経済性評価 ・NPVと(割引回収期間法)で優劣結果が異なる場合、PI法により投資効率性を持ち出して説得。PI = $\sum (PV) / \text{投資}I$。 ・割引回収期間法は <ul style="list-style-type: none"> ○時間価値は考慮 ×回収後CFを無視 ×基準不明確 →よってNPVより優れているとは言えない。 ・NPV大差ないなら、PI法により投資効率性を示してみんな納得。 	構成	設備投資経済性
48	8/31	演習④ (事例Ⅳ)	<ul style="list-style-type: none"> ・第4問はどうしても取ってつけたような問題になる。①経営法務系 ②情報Sys系、のいずれか。 ・経営法務の知識を押さえておく(種類株式・自己株式・分配可能額・・)。演習では出さないで、自力でカバー(模試は情報システム)。 	持ちネタ	個別問題(第4問)
49	9/2	2次勉強会② (事例Ⅳ)	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析。いろいろ理詰めで考えると、選ぶべき経営指標は不動のレギュラーメンバー。 ・追加ストレッチ候補→売上高金融費用比率、付加価値生産性=資本装備率×資本生産性。まあまずありえないが。 ・経常利益率では×→売上高経常利益率。 		
50	9/2	2次勉強会② (事例Ⅳ)	<ul style="list-style-type: none"> ・営業CFの問題、計算結果合わなくてもCF分析のコメントは何か書ける。最後までさがみつき。 ・おまけ問題はやはり事前対策のしようがない。 		
51	9/3	2008模試事例Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の処理手順精度を確認 →指標はレギュラーメンバー。根拠Pushで選ぶ。分析コメントの記述精度はまだ向上余地あり。 ・個別問題のカンを取り戻す。 一質・量ともにカバー可能な範囲内。リスク調整割引率法が新知識。やはり知ってるか知らないかで点差つく。毎日コンスタントな分散処理がベター。 →その他問題はやはりどうにも食えない。低リスクかシンクロナ率UPか。模試で知識増やす。 		
	9/3	演習ネタ復習①	<ul style="list-style-type: none"> [期待効果・予実] ・演習総復習 →気づきメモ残す →計算ミスは時間ロス大、予定消化量こなせない。財務ルーブトラップ。 →気づきメモは新鮮、有効。事例Ⅳの効果的学習方法は、何度も繰り返して間違えてエラーノウハウのストック。次から間違えなくなる。 ・工簿トレⅢ消化 →着手すら出来ず。計画的消化必要。 ・模試で何をするかイメージ →個別問題は予想可能、処理容易。論点見切って確実に取る。端数処理 		

9/3	演習ネタ復習①	CF計算書作成:どこかミスと、発見に手間取る。1回でピタッと合わせる様、単純な処理ほど確実に計算。 [計算合わなくなる要因ストック] ・BS増減の転記ミス(数字違い)	テク	CF計算書
9/3	演習ネタ復習①	CVP分析:ボーナス。要領見切って正確に計算すれば短時間で高確度高得点。計算もしやすく、明らかに点差つく。問題文条件が多い場合は読取力(けたぐり力)の勝負。 ・最適セールスマックス:現在の生産が非効率(現行品販売単価の下落)のため、生産能力を一部縮小。→最適セールスマックスでOI最大化。 ☆直接原価計算→CVP分析→最適セールスマックスコンボ(分岐) 制約条件がある場合、売上目標はSBEP→最適セールスマックスに置き換え	構成	CVP分析 最適セールスマックス
9/3	演習ネタ復習①	追加注文引受可否:追加注文により「差額収益」が発生。代わりに何か「差額費用」が発生する場合は、スペシャルワード「差額利益」「差額損失」を使って解答し、わかっている度アピール。 EOQ:必ず解けるよう作ってある。発注費・保管費の公式を書き、方程式でつないで「」を求めるだけ。ダミーデータ(※)注意。 ※1回あたり発注費、年間保管費ともに、計算対象はV変動費のみ。固定費用はEOQ計算に無関係。	テク	業務的意思決定 経済的発注量
9/4	演習ネタ復習②	設備投資経済性計算: ・基本は、FCF+割引率(資本コスト)+現在価値、の3人組。これに各種オプションパーツを加えて問題が完成。	構成	設備投資経済性
9/4	演習ネタ復習②	パターンA:排他的投資+計算方法評価 ・経済性計算方法をいくつか提示し、最適な方法を選ばせる。 ・設備投資経済性計算はDCF法(NPV)が必ず登場。その他の方法はNPVとコンボで優劣を問う形で出題。 NPV法 →金額PVの絶対値基準 IRR法 →収益率 PI法 →投資効率性※他の方法で意見が分かれるとき、これを出して説得(割引)回収期間法 →回収の早さ	構成	設備投資経済性
9/4	演習ネタ復習②	パターンB:取替投資+差額原価 ・既存設備からの取替投資案を提示し、採算性を検討させる。 ・差額原価の論点が出たら、解答にはべんりワード「差額利益」「差額損失」を使ってわかっている度アピール。 ・ダミーデータつまみ出し要注意	構成	設備投資経済性
9/4	演習ネタ復習②	パターンC:段階的意思決定(リアルオプション) ①段階的な投資の意思決定により ②将来得られる情報に柔軟に対応して ③不利な選択肢のルートを閉じて ←つまり不確実性リスクを低減 ④NPV(の期待値)を高める ・年金現係数や端数処理・期待値計算等を絡めると確実に点差がつくため、出題しやすい。	構成	設備投資経済性
9/4	演習ネタ復習②	オプション①:FCFの算出 収益がCIF⇔営業利益(税前・税後)のいずれかで与えられたか、強烈に意識する(とすぐ解ける)。 ①営業利益 →税引後の揃え、減価償却費を足す ②CIF →税引後CIFのBOX図で処理 ↑この違いがわかれば、FCF&NPVマスターの仲間入り。	テク	設備投資経済性
9/4	演習ネタ復習②	オプション②:資本コストの評価(確実性⇔不確実性) ・資本コストの与え方でもちょっと捻ることが可能。 確実性等価法→いつもの方法 リスク調整割引率法 →不確実性を考慮。FCF(調整後)⇔割引率(リスクプレミアム)のいずれかを使ってNPV計算。両方とも調整値を使わせるひっかけ。	テク	設備投資経済性
9/4	演習ネタ復習②	オプション③:現在価値の計算~埋没原価コンボ ・過去の発生費用や設備投資は、現在の意思決定・NPV計算から除外する。 ・もともと埋没原価とは「設備への資本投下の未回収分」。これがやや拡大解	テク	設備投資経済性
9/4	演習ネタ復習②	オプション④:複雑な条件設定、端数処理~検算プロセス ・NPVの問題は難しい計算が不要な一方、条件見落としは検出困難(検算不可能)。必ず見直しを入れ2回解く。時間確保重要。 [見直し手順] ・税引後CIFのBOX図は正しいか(要求解釈) ・制約条件は全て使っているか(最終年度の売却収入、売却損益TS) ・ダミーデータを正しくつまみ出したか ・最後に、小数点・端数処理要求をもう一度チェック。	テク	設備投資経済性
9/4	演習ネタ復習②	企業価値 ・構造的意決定のうち、(設備投資経済性を除いた)企業買収・合併の論点。NPVを用いる点で共通するが、企業価値を様々なバージョンで計算させるのがポイント。 ①DCF法(FCFから) 永続価値の扱いがポイント。一定⇔定率成長(インフレ) ②負債価値+株式価値。割引配当モデル(一定⇔定率成長)	構成	企業価値
9/4	演習ネタ復習②	・今日のつながり発見。 ・事例IV個別問題はヨコのつながりを比較すると意識しやすい。 業務的意思決定(CVP) ⇔ 構造的意決定(設備投資・企業買収) DCF法(NPV)の適用:設備投資経済性計算 ⇔ 企業価値計算 ・企業価値は①経営側 ②買収側 が共通で使える物差し。経営側の論点は資本コスト→最適資本構成、MM理論。	構成	個別問題まとめ

9/4	演習ネタ復習②	[期待効果・予実] ・上級演習論点カバー&気づき →論点確認しチャートまとめ。全体像OKなので、残り論点埋めにステップup ・財務ループトラップを意識する(タイムマネジメント) →考えがまとまらない、鉛筆が止まる、電卓で同じ計算を2回している、が黄信号。 ・9/6模試での未出題論点セルフチェック機能 →これだけやって知らない問題があれば、それは無理だろ。 ・情報・法務ありがちメモ →今回は間に合わず。本番までの完成を意識。				
9/14	直前演習⑧ 事例IV	・2次試験とは、 ×正しいものに点がる ○間違っていないもので、作問者が意図したものに点がる。 つまり、合っているもダメ。作問者の意図を汲み取ってそれを答える試験。	勉強法			
9/14	直前演習⑧ 事例IV	・経営分析はTAC生上位40%の答えが正解になる。TAC生有利だが、パターン化・研究が進んでいることから、何か変化球が来た時に対応できるよう、パターン脳にならず常に基本・理論を意識しながら解く事。○○だから△△が正	勉強法			
9/14	直前演習⑧ 事例IV	・有形固定資産回転率は最近出題ないので注意。 ・何でも言うが、端数処理ミスは0点になるので、最新の注意。 ・直前に解いた問題の指標に引っ張られないよう注意。あくまであくまで与件根拠に忠実に。	構成			
9/14	直前演習⑧ 事例IV	・経営指標が2つになったときの選び方注意。安全性⇔効率性の選択を間違えたと、根拠部分も全て失点するので特に慎重に。 ・対応→複数指標案並べて、与件の根拠が多く入る方を選ぶ。その処理をする時間の余裕はある。 ・運転資本・運転資金ワードは複数定義あるので注意。売上債権・棚卸し資産増、と書く方が低リスク。	テク		与件根拠を考えれば、効率性<安全性は選べる。数値的に難があれば、当座比率⇔流動比率を比較して、より安全な方法に逃げるのもテク。	
71	9/14	直前演習⑧ 事例IV	・タイムテーブル書き方のコツ ①ヨコ線を描いて期首・期末に区切り線入れる(線路の枕木) ②区切り線の中に年度を書き込み、期首・期末を明確に意識する。これでCF発生時期のミスは心配不用。 ・年金現係数Σの使い方に慣れておく。i≠1の場合はどこからスタートしているかをすぐにチェック!	テク		設備投資経済性
72	9/14	直前演習⑧ 事例IV	・DCTはツリーで書くわかりづらく、間違えやすい。ヨコ棒一本川の流れを描いて場合分けの方が間違わない(簿記1級鈴木メソッド!) ・DCTの各ケースの生起確率を計算。生起確率の和=100をチェック。	☆今日イチ		DCT
73	9/14	直前演習⑧ 事例IV	・負債の節税効果を問われたらキーワード「損金算入・不算入」と答えてわかってる度アピール。	持ちネタ		資金調達コスト
74	9/14	直前演習⑧ 事例IV	・通貨オプションは商売パターンから考えればOK。H21の出題可能性H。リスクリターン・ポートフォリオあたりもH。 ・通貨オプションのオプションパーツ「ヨーロッパタイプ」。2点差がつく。 ・個別問題が難しい場合、得点調整がありうる。1~2点の差→3~6点差の可能性あり。疲れていても細やかな表現に気を使ってしがみつ	テク		×為替予約⇔通貨オプションの思い込み混同ミス。わかっている感の油断。→直前早解きで対応。
75	9/14	直前演習⑧ 事例IV	[期待効果・予実] ~あえて間違えてみる?間違いによる復習想起効果収穫大 ①経営分析 ~時間かけずに根拠3×3埋める →解答要求2つ。安全性⇔効率性の優先度判定トレーニング。収穫◎。 ②取替投資+TS+DCTをおいしくいただく →×投資 ○研究開発。しかし研究開発費のTSは考慮しなくて良い? ③原価計算出たらおいしくいただく。大問30点? →×原価計算 ○負債の節税効果。理論問題出たらいただき!しかし時間余りまくったが...。かろうじて平均点ぐらいか。			
76	9/17	集中特訓1④ 事例IV	・経営分析:基本→変化パターンを意識しストック →要求2つの場合に、効率性⇔安全性のどちらを優先するかの手順磨く。与件の根拠から判定。 ・時間配分:早解き目標(ミス出し) →このレベルの個別問題はへへ余裕だぜ...。百万円→千円単位換算で間違い。ラッキーナイスミス(本番でやらないように)!			
77	9/21	直前演習⑧ 事例IV	・事例IV個別問題対策は、事例講義テキスト+演習問題+模試得点UPレジュメ5問で全てカバー。あとはその範囲の中で作られる(はずの)初見問題への対応力。 ・小問(1)(2)で別設定に解釈できるケースを除き、悩ましい問題なし。 ・ちなみに事例IV初見問題、個別専門知識問題をピタリ合わせてくる受験生はごく少数なので、自分の可否には無関係、と楽観的に考える。	学習法		
78	9/21	直前演習⑧ 事例IV	・経営分析指標は3つ→2つに経ると、絞込み判断があるので難易度UP。 ・安全性指標は、当座・流動・固定・自己資本と全てBSのハコの中で連動。短期的な問題点指摘・改善策提示の観点から、当座比率イチ押し。 ・H20はZ社による増資が改善策だったので、裏返し問題点の自己資本比率が経営分析の妥当解となる。つまり基本しっかり押さえて、応用に捻られても冷静に対応できるようになっけよ、ということ。 ・当座比率を指摘したら、借入金増・支払金利増指摘コンボとなるので、収益性指標は売上高経常利益率が妥当解。	テク		経営分析
79	9/21	直前演習⑧ 事例IV	・経営分析のベンチ組パターンは試験1~2日前におさらいチェック。 ①総資本利益率(ROE)のデュボネン等式(総資本回転率×当期純利益率) ②生産性指標(付加価値額/人→売上・有形固定資産・給与額で分解) ・各種の知識問題はどうせ2次口述向け対策が必要なので、筆記試験対策時に前倒してやっておく。	テク		経営分析

80	9/21	直前演習⑧ 事例Ⅳ	・オプションの最大損失を問う問題 →知らなければ難しいが、一度やれば次は解ける問題。 ・ヨーロピアンは1次・2次(H14)とも出題実績あり。	テク	通貨オプション・為替予約
81	9/21	直前演習⑧ 事例Ⅳ	・年金原価係数Σの与え方は、知識を試す意地悪ではなく、計算をラクにさせようという試験委員の好意。2年連続で出ているので、趣旨を理解してありがたくおいしく使う。	テク	設備投資経済性
82	9/21	直前演習⑧ 事例Ⅳ	・リアルオプションは試験委員の専門だが、あまりのできなさっぷりにH20は出題なし。ただし①H21新試験委員のファイナンスが専門 ②H21経済学での出題、など思わぬ材料に事欠かないので、十分に対策。 ・リアルオプションの特徴＝損切りできるので、加重平均よりも期待値UP。ただし演習⑧第3問(2)は差額収益＝売上高が対象だったので、売上△にすることができず、リアルオプションで期待値が下がるという作りとなった。証券投資ならこれを△にするので、確実に期待値↑。	持ちネタ	DCT
83	9/21	直前演習⑧ 事例Ⅳ	・社債の償却原価法はさすがに診断士試験では出題できないので、額面価額での発行となる。理論で申しして..	持ちネタ	資金調達・負債の節税効果
84	9/21	直前演習⑧ 事例Ⅳ	【今日の予実】 ①新たな追加発見があるか +αの小ネタ裏づけ感。一応全範囲網羅した安心感を確保。 ②知識の一般化ストック →体系的理解・処理能力・持ちネタ量はXX先生太鼓判レベル。安心感と自信を持ってグルグル回して穴つぶし、知識ストック。		
85	9/25	集中特訓⑧ 事例Ⅳ	①出題範囲と変化のつかけ方 ・通貨オプション →表現の仕方に工夫(差損益総額orレート差額で解答) ・直接原価計算 →業務的意思決定(貢献利益率± →着手可否) ・取替投資 →リースと比較。1年あたりFCFで比較 ・内部統制ネタ →妙に親しみやすい ②時間感覚、タイムマネ ・えらく簡単な問題。タイムマネ問題なし。時間間隔をさらに磨く		
86	9/25	最終集中④ 事例Ⅳ	・高得点で慢心しないこと。必要得点2/3を狙いにいき、たまたま↑..ならOK。事例Ⅳでも高得点狙いは大事故のもと。	学習法	
87	9/25	最終集中④ 事例Ⅳ	・経営分析はわざと表現に悩んで時間ロスするよう作っている可能性アリ。個別問題を先にやり、経営分析は時間制限を守って、個別問題見直しに戻る。 ・指標選択はピンポイントで当てにいかず、予め自分の解答パターンを用意。必要に応じてオプションパーツに交換して解答。 ・借入が起きていれば、3つの指標のうち2つ確定！ →売上高経常利益率・当座比率 ・経営分析のコメントは文末に制約あるケースに注意 相対比較→○収益性が低い △低下している 絶対評価→○収益性が低下している	テク	×反省ルーム 経営分析記述に案外悩んで時間ロス。 個別問題見直し時間不足→結果たまたま合ったが、タイムマネジメント致命的ミス！本番でやらさないこと。
88	9/25	最終集中④ 事例Ⅳ	・収益性指標でも迷ったら、すぐに経常利益率を選択。悩んでもせいぜい+1~2点なので、悩んでロスする時間がかからない。個別問題の見直し優先 ・効率性指標は、棚卸回転率・有形固定資産回転率が不動産のレギュラー。与件根拠のボリュームからどちらか(or 親玉総資産回転率)を選択。 ・安全性指標は、金利発生＝当座比率選択で根拠の1/3GET。一瞬浮気したくなるが、やはりこれも与件根拠のボリュームから。 ・当座比率のコメントは事前にテンプレ用意。 「売上高減による現金収入減」 「運転資金としての(短期)借入金・利息の増加」	テク	経営分析
89	9/25	最終集中④ 事例Ⅳ	・個別問題の処理は、①解答要求 ②設定条件、の順に読みに行く。事例Ⅰ～Ⅲと同じく、予想して条件探しに出発することが迷子にならないコツ。	テク	個別問題総論
90	9/25	最終集中④ 事例Ⅳ	・直接原価計算～限界利益率・貢献利益率計算はウルトラサービス問題 ・割り切れる%に無理に小数点以下0をつけることは不要。○30%、でOK。		直接原価計算
91	9/25	最終集中④ 事例Ⅳ	・NPVは気持ち悪い問題パターンが一杯作れる。NPVを好きになることが合格への近道。 ・第3問(3)(4)反復投資は取らないで良い問題。(1)TS節税効果 (2)NPV計算でしっかり取る。ここは落としてはいけない問。 ・NPV計算の現価係数目一杯電卓叩かせタイプの処理。現価係数の特長を活かし、計算回数を減らすことがポイント。 ・耐用年数が異なる投資案の評価(←ここまで出すかね～) ①反復投資 = 最小公倍数の年数に揃える ②資本回収係数		設備投資経済性計算
92	9/26	直前演習⑧振り返り 事例Ⅳ	・為替予約・通貨オプションのどちらを聞かれているかに注意。 オプションの表現3段活用。 ・プットオプション ・ドル建てのプットオプション ・ヨーロピアンタイプのドル建てプットオプション		
93	9/25	最終集中④ 事例Ⅳ	・NPV計算にDCT+売却損を追加。条件多いため正答率低いが、頻出なのできっちり実力養う。		
94	9/25	最終集中④ 事例Ⅳ	・社債(負債)の節税効果の表現磨く。これは取れる。		
95	9/27	最終集中④ 事例Ⅳフィードバック (XX先生)	・割り切れたら30%と書く。30.00%は×。使って良いのは小数第3位で四捨五入したときだけ。 ・事例Ⅳで与件文を第1問経営分析以外にも使う応用パターン。 ・反復投資は最小公倍数。設問で与えられた条件を最大限に活用。		

96	9/26	2次総まとめ (XX先生)	・DCT、リアルオプション。 →段階的なオプション判断が可能ならDCTで処理。後ろから計算し期待値低い方のルートを閉じるリアルオプションにより、全体の期待値↑。			
97	9/26	2次総まとめ (XX先生)	・CF計算書は基本的出題なので、過去問レベルは確実に解く。CF分析コメントとセットで出題。 ・営業CF・投資CFの符号同じなら、FCFの説明は省いても良い？ ・状況説明のみでOK。改善提案言及不要。			
98	9/28	2次総まとめ (XX先生)	・ストレート生・上級生を問わず、限界利益・貢献利益・TSの理解が不十分なので補講。 ・CVP: 奇数年はCVPでやすい？売上伸ばすべきは、限界利益率↑な商品 > 貢献利益率↑な商品。 シフトするなら高限界利益率商品。 ・固定費と貢献利益率の差を好況・不況それぞれに強い産業のイメージで考える。固定費↑は好況に強く、不況に弱い。売上が伸びる高成長期には高固定費一年功序列の産業が成立した。 ・95年の山一ショックでロジック変わった。不況に備え、企業は人件費を変動費化し、非正規雇用が増加。 ・05年の労基法解雇基準の改訂でこの傾向に拍車。4要件満たせば解雇権の濫用にならない。派遣社員さらに増加 ←ああ中小のあの話。 ・その仕組みを知っていれば、生殺与奪権は会社でなく、自分自身で持つべき。			これ、IVの話？
99	9/28	2次総まとめ (XX先生)	・CFとTSを税引後CIFBOXを使って説明(内容省略)。 ・税引後CIFBOXに設備投資額を入れない理由を確認。①FCFと営業CFが違うから ②資産取引はP/L(税金)に関係しないから。 ・TSの出番はT/Bの下半分。収益・費用が絡む(=損益取引)の時だけ。 ↑損金算入されるため。節税効果が働き、現金流出額が減少。 ・よって、負債の節税効果もTSの仲間。(非資金費用+損金算入できる費			
100	10/6	07TAC模試④ 事例IV	①個別問題のタイムマネジメント →一瞬戸惑ってタイムマネ狂う。経営分析に悩む時間省略して、なんとか80分で完了。 ②経営分析3段お重 →安全性1、効率性2の変則パターン。事例I～IIIの根拠重視慣れで、不安ながらも3問HIT。理由記述は表面上のできごとよりも、一歩踏み込んだ原因に配点がかかる感じ。もう少し様子見。			
101	10/10	2次オプション④ 事例IV	・事例IVの個別問題はもう1周全て解きなおすこと。 ・個別問題間の関連性の有無で判断分かれることあり。あいまい傾向が強くなっていくことに十分に注意。 ・論点難易度が低く、設定の甘さで難易度上げられなくなると点差がつかないピンチ。設定甘くなるリスクを想定したトレーニングを残り2Wで。	学習法		
102	10/10	2次オプション④ 事例IV	①収益性: いつもの売上高経常利益率が正解だが、営業利益率での指摘記述も考えてストレッチ。超別解として売上高人件費率もアリ。 ・単なる「売上減」でなく、一段踏み込んだ「〇〇なので売上減」とすることが2点GETのコツ。 ②効率性: ソフトウェア含むなら「有形」でなく「固定資産回転率」。とんち驚き ③安全性: 当座比率なら、60字お約束記述テンプレ登場。費用発生により現金支出が増加し、(運転資金として)短期借入金が増加。 ※TACのお約束パターン脳ばかりで処理せず、なぜそうなるかちゃんと考えるこ	構成		経営分析
103	10/10	2次オプション④ 事例IV	・演習では与件根拠数字重視で、FSの数字があまり動かないが、本試験はちゃんと丁寧に作ってくる=指標の数字が動く、ので安心して本番に臨む。 ※ただし何が起きても慌てないリスク対応も。 ・与件根拠のみで経営指標判断できないケースが増加傾向。FS使って指標数値の変化をしっかりと捉える手順を入れる。	構成		経営分析
104	10/10	2次オプション④ 事例IV	・CVPは理論・記述問題対策として、グラフをしっかりと描いてイメージアップ。 ・損益分岐の視点 →①固定分解 ②SBEP ③安全余裕率。 ・新プロジェクトは固定費↑だが、売上がそれを上回って↑なので収益↑。	構成		CVP
105	10/10	2次オプション④ 事例IV	・リアルオプション: 損するくらいならやめちゃえ→NPVは常に≥0。 ・意思決定先送りのオトク感を身近に感じてみる。先送りにより入手情報が増え、判断精度↑。来年の梅雨は空梅雨か、大雨降るか。 ・リアルオプションは、柔軟性が出れば出るほど価値UP。	テク		
106	10/10	2次オプション④ 事例IV	【今日の予実】 ①経営分析 ~今回は変形パターンだろ。 →ソフトウェア追加で「有形固定資産回転率」→「固定資産回転率」とんち。 ②個別問題の予想⇄乖離 予想)CVP・取替投資・MM理論 実際)CVP・リアルオプション・CAPM&WACC →フレームだいたい合ってるが、難易度極端にわかれて点差つけられず。CVP固定分解の日本語甘さにやられて△7。本番でなくて良かった。こればっか。 ③タイムマネ →かなり余る。0ベース解答要求見直し、端数処理制約チェックに時間使う。残り2wは過去演習解き直しと、最終仕上げモードの手順固める。			
107						
108						
109						
110						
111						
112						
113						
114						

115					
116					
117					
118					
119					
120					